

安代小が文部科学大臣表彰を受賞

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に係る取り組みを評価

文部科学省は12月20日、4年度「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る文部科学大臣表彰を発表し、本市からは安代小学校(石川修浩校長、児童86人)が受賞しました。

地域とともに進む学校の取り組みを評価

今回の受賞理由は、同校の学区内5つのコミュニティセンター(コミセン)やPTAとの連携体制が強固で、学校運営協議会での共通理解のもと充実した地域学校協働活動が展開されていることによるものです。



受賞を喜ぶ石川校長(左)とコーディネーターの工藤優子さん

連携したコミセンの支援体制

同校で支援員として勤務しながら、コーディネーターとして学校と地域の橋渡し業務に携わる工藤優子さんは「地域にはさまざまな技術を持った人がたくさんいます。地区内の5つのコミセンには、毎年交代で、安代小担当を決めていただいております。今年度の担当コミセンに相談すると他のコミセンにも連絡し、コミセンの隔たりなく活動に向けた人の手配な

どを強力に支援していただいております」とコミセンが果たす役割の大きさを挙げる。

石川校長は「子どもたちに自分の地域のことを聞くと、地域の良いところをすぐに挙げられる。地域の良さを継続的に学べるのは、コミュニティ・スクールの取り組みの良さだと思う。地域の人も、子どもたちと関わったり自分の知識を教えたりする様子がとても楽しそうで、良い影響を与えている。賞をいただいたから、また新しく何かではなく、地域の人に支えられている今の状況が良い学習環境となっているので、この仕組みを維持していくことこそが大事」と多大な支援に感謝しました。



地域の人にそば打ちを教わる3年生児童

コミュニティ・スクール 地域住民が学校運営に主体的に参画する仕組みとして、学校運営協議会を設置した学校のことで、現在は市内14校全てがコミュニティ・スクールとなっています。安代小は、寄木小とともに市内で最も早く、平成30年に学校運営協議会制度を導入。学校と保護者、地域の皆さんが共に知恵を出し合って、子どもたちの成長を支える取り組みを地道に積み重ねてきました。

県農業農村指導士に2人を認定

地域農業の振興や次世代の農業者の指導・育成に意欲的に取り組む

4年度岩手県農業農村指導士認定書交付式は2月2日、サンセール盛岡で行われ、本市からは新たに工藤佳輝さん=苗石田=、古川佑史さん=松尾=が認定されました。

工藤さんは、主に切花リンドウやリンドウの苗生産に取り組んでいるリンドウ農家で、古川さんは、水稻のほか主にミニトマト栽培や大豆、麦な

どを含めた複合経営を行っており、圃場の管理状況の審査などを経て、農業農村指導士として認められました。

農業農村指導士は、農業後継者の確保・育成に指導的役割を果たすことを目的としたもので、今後、農業技術・経営の向上と農村地域の活性化に向け、指導的立場で取り組んでいきます。

古川 佑史 さん

農業に携わる人が全体で良くなるように、知っている知識、技術は伝え・指導するなど、活動していきたいです。また自身も新しい技術を習得し農業に取り組んでいきたいです。



工藤 佳輝 さん

地域人口が減少する中ですが、農業生産の基盤を維持し、農業を次世代につなげられるよう、今後も取り組んでいきたいです。